

【学会報告】

第34回日本基礎老化学会総会 学会報告記

白澤 卓二
順天堂大学大学院
加齢制御医学講座

2011年6月15日から17日まで、西新宿で第27回日本老年学会総会が東京医科大学名誉教授高崎優先生を会長に開催された。本年の老年学会は2年に一度の合同大会で、第34回日本基礎老化学会が同時に京王プラザホテルで開催された。老年学会はこれまでの日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会に今年から日本老年看護学会が加わり、7学会の合同大会となり、京王プラザホテル、ハイアットリージェンシー東京、NSスカイカンファレンス、スペースセブンなどの西新宿の複数のカンファレンス会場で開催された。合同大会第1日目は、午前中に合同シンポジウム「健やかな長寿社会に向けての老年学会の取り組み」、藤正巖先生による特別講演「百歳社会の構造と設計」、午後、パネルディスカッション1「介護予防：現状・課題と新たな方向性」、パネルディスカッション2「日本学術会議からの提言「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築」と今後の老年学の展開」が企画され、会場から活発な議論が展開された。

6月16日、17日の2日間、第34回日本基礎老化学会総会

を京王プラザホテルで開催した。今年の総会は「基礎老化とアンチエイジングの接点」をテーマに口演32題、ポスター27題（その内合同ポスター4題）、ランチョンセミナー2題、2日目に特別シンポジウム「これからの基礎老化研究を考える」、3日目にシンポジウム「脳機能と健康食品、漢方」を企画した。1日目の夕方から、スペースセブンでポスター発表を行い、活発な討論を行い研究交流を深めた。また、優秀若手発表、3題に関して例年通り若手奨励賞を授与した。

本来であれば、合同大会の今年は韓国からの研究者を招待し、日韓合同シンポジウムを開催する予定であったが、東関東大震災とそれに伴う放射線汚染の問題から、韓国からの研究者の訪日がキャンセルされ、その代わりに特別シンポジウム「これからの基礎老化研究を考える」を企画し活発に基礎老化学の将来に関して議論が交わされた。

日本基礎老化学会は、7学会の中でも会員の数が少なく、合同総会の運営に関しても、共同歩調をとるのが極めて難しくなっている事も事実で、他学会との関わり合いに関しても様々な議論がかわされた。